

不登校のクラス、適応指導教室「緑のまきば」の指導員への導き

ジャカルタ日本語教会赴任を終えて日本に帰国、「女性のほんとうのひとり立ち」港晶子著を再度読み、ライフワークを求めてルーテル学院大学人間成長研究所にてカウンセリングを学ぶ。「緑のまきば」指導主事と出会う。印西市教育委員会で採用され、現在に至る。

「支える」とは、子供が中心にいることを意味します。私達は彼らが自分で立ち上がって歩き出すのを見守り支える者にすぎません。私はスクールカウンセラー、教師でもなく、20年間現場で不登校の子供たちの声を聴いてきました。その声は小さく、弱々しく、他の人にきちんと話すことが苦手です。そこから聞こえてきたことをを分かち合いたいと思います。答えがあるわけではありません。彼らを支えるために一緒に考えたいと願います。

1、不安 なぜ、学校に行けないの？私は、居ていいの？

- ・彼らは責められている。教師、両親、自分自身から。さらに身体症状が現れることも。
- ・行動の範囲が狭まる。場所も時間も人も。安心できる場所の確保を必要としている。
- ・皆が普通にしていることができない。自分はダメだ。消えてしまいたいと思ってしまう。

2、不登校の原因、誘因を探すのではなく、彼らと向き合う事。

- ・原因を親は学校や友達、学校は家庭とする傾向がある。
- ・原因を外に探していく時、本人は置き去りになっていく。

3、共に生きていく者として歩む。

- ・子供の成長段階で直面する課題やその子自身の傾向を受け止めていく。
- ・大人も迷っているから聞かせて欲しいとの正直な言葉による会話を。
- ・役立つ経験、達成感をゆっくり、少しずつ積み上げていく。

4、人生はトータル。

- ・再登校が目的ではない。自分の足で立ち上がり歩みだす日を待つ。
- ・今は、無駄や遠回りと思えても彼らのやり方を尊重し見守る。

5、その時が来たら。

- ・いつまでも同じところにはいない。彼らは親には信じていて欲しいと思っている。
- ・先回りして過干渉になるのは、信頼していないとのメッセージ。自尊感情は、信頼されている子に育つ。・それぞれに立ち上がる時がある。

「神は、人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は、彼らを祝福された。」神は、ご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。」創世記 1:27、31a

私たちは、この宝を土の器の中に入れています。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。」コリント人への手紙第二 4:7~8a